

プログラム紹介

ねっとさーば Cloud

～クラウド環境でのアプリケーション管理ツール～

Application Management Tools in a Cloud Environment

柳田 勇 *1

Isamu YANAGITA

福田 麻砂樹 *2

Masaki FUKUDA

岸 省治 *3

Syouji KISHI

1. 開発の背景

近年、各種オンラインサービスの充実・拡大に伴い、膨張の一途をたどるオンラインストレージは、その有効利用の場を求めてクラウドサービスという概念を生み出しました。クラウドサービスにおいては、ウェブサービスとしての業務パッケージの利用のみならず、生成されるデータもまたオンラインストレージ＝クラウドに格納することで、利用者端末のシンクライアント化（利用者端末側ではデータディスク等を持たず最低限の機能とし、ネットワークを通じてサーバ上のアプリやファイルを利用する形態）を促進しようとしています。一方で、パーソナルコンピュータの高機能化、低価格化も止むことなく進展し、先のシンクライアント化の対極として高性能CPU、より大量のメモリと高速大容量データディスクを利用者端末に搭載するリッチクライアント化と、それをベースとした高機能アプリケーションの利用環境が一段と整備されています。特に技術計算系高機能アプリケーションでは、高いCPU性能、より大量のメモリとデータディスク容量を必要とするため、ローカルPCやローカルサーバ上のデータストックも膨大なものとなっています。

そうした状況下での近年の度重なる大規模自然災害の発生に、企業はこれらのデータストックや業務アプリケーション利用環境の継続性の担保、即ちBCP（business continuity plan：事業継続計画）対策により真摯に取り組んでいます。

2. 開発目的と狙い

CADや設計支援ソフト、構造解析ソフトといった技術計算系高機能アプリケーションは、処理結果のプレゼンテーションなどでの利用場面を除けば、現在でもそのほとんどがリッチクライアントPC（ローカル環境）で利用されています。利用者は、先に述べたデータストックやアプリケーション利用環境の喪失リスクに加え、ライセンスを適法に使用するための管理コストと故意、過失に係わらず不正使用を犯すリスクを抱えています。

業務アプリケーションの利用者がライセンスの不正使用の過失（ここでは故意によるソフト改変などを除きます）を犯す主な要因は、業務アプリケーション側のライセンス管理機構の不完全さに起因します。例えば、同じシリアル番号で複数人がインストールできてしまったり、アクティベーションできてしまったりする場合などです。この例では、利用者側の管理者がシリアル番号の利用規則を定めて別途管理しなければこうした過失＝不正使用を未然に防止することはできません。利用者によるこうしたライセンス不正使用の過失発生リスクは、そのままソフトベンダー側の機会損失にも直結します。

ここまで述べた通り、ローカルPC上でアプリケーションソフトを利用する上で、利用者や提供者が直面するリスク、即ちデータの喪失リスク、アプリケーションの使用不能リスク、ライセンス不正使用の過失発生リスクを解消し、かつアプリケーションソフトの管理コストを大幅に低減し、より一層の利活用を促進するためのアプリケーション管理システムをクラウド環境上に構築することを目的に、「ねっとさーば Cloud」を企画しました。

クラウド環境は、その利活用が今後一層促進され、業務アプリケーションソフトの利用上でも日常的なプラットフォームとなるでしょう。そのプラットフォーム上でアプリケーション管理システムを提供することで利用者との長期的で安定したアプリケーションソフトの需給関係を築くことをビジネス上の狙いとしています。

3. 製品開発の経緯

我々は、1998年にアプリケーションソフトのライセンス管理を効率化する目的で、「KTSねっとさーば」をリリースしました。当事、一般企業においても急速な普及期に入っていたLAN（Local Area Network）環境上にライセンスサーバを設置し、当社のパッケージ製品である、SUCCESシリーズ、V-nasシリーズなどの購入済みライセンスを登録すれば、LAN上に接続されたローカルPCから早い者勝ちで購入済みのライセンス数上限まで同時に複数人

*1 川田テクノシステム㈱開発部 次長

*2 川田テクノシステム㈱営業統括部ソリューションビジネス推進プロジェクト建設コンサルタントマーケット担当 次長

*3 川田テクノシステム㈱開発部開発二課 係長

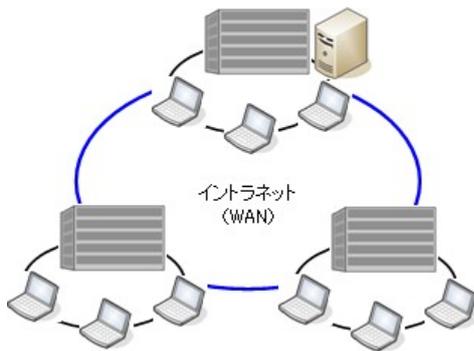
で使用することができます。

また、「KTSねっとさーば」ではライセンス管理機能に加えて、セットアップファイルやアップデートファイルの登録機能や、ねっとさーば（サーバ版）が当社ダウンロードサーバに自動問合せして最新のアップデートファイルを取得・登録する機能を備えることで、利用者はUSBプロテクトや、セットアップCD-ROM、アップデートファイルなどの個別管理から開放され、購入ライセンス数を超えて不正使用を犯すリスクも解消されました。



「KTSねっとさーば」クライアント版画面

一方で、多拠点で業務展開する利用者にとっては、ネットワーク環境が更に統合されたWAN（Wide Area Network）環境の構築が進展し、WAN上でも同様のライセンス管理を行いたい要求が生じてきました。そうした需要に応えるべく2006年に、「ねっとさーばforWAN」をリリースするに至りました。「ねっとさーばforWAN」では、ネットワークライセンス管理の管理範囲をLANからWANへ拡張するだけでなく、利用状況をブラウザで確認できるユーザーインターフェースを採用しています。



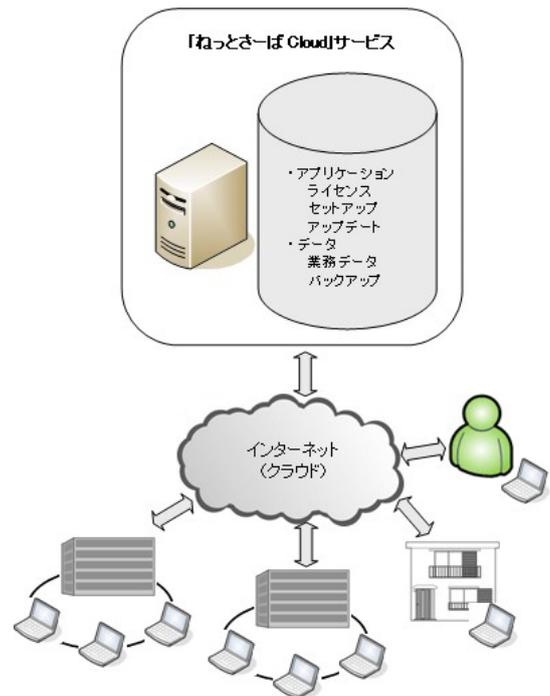
「ねっとさーばforWAN」の管理範囲イメージ

4. 「ねっとさーば Cloud」で実現するもの

「ねっとさーばforWAN」を更に機能拡張させたものが「ねっとさーばCloud」になりますが、後者の違いは、ネットワークライセンス管理機構その他を自社のネットワークインフラ上に購入・設置するのではなく、その外側、即ちインターネット上＝クラウド環境に構築されたサービスとして利用することで、

- ・ 利用者のアプリケーションソフト管理が不要
 - ・ 処理データの外部バックアップに利用できる
あるいは、クラウドをデータドライブ化できる
 - ・ 自宅など、社屋以外での利用が可能※となるなど
ライセンスのシェア範囲が拡大する
- ※インターネット接続環境必須

など、管理コスト低減、利便性向上、ソフト利用環境、および業務データの保全を可能としている点です。



「ねっとさーばCloud」の管理範囲イメージ

5. 今後の展望について

「ねっとさーばCloud」は、現在2013年のリリースに向けて開発中です。まずは、歴代の「ねっとさーば」シリーズの利便性を継承・統合・拡張し、利用者をアプリケーション管理負担から開放します。次いでネットワークストレージを活用したデータバックアップやネットワークドライブ機能をクラウド環境上に実現することで、企業は業務遂行上必須である業務アプリケーションの利用環境や業務データの継続性を担保できます。また、我々ソフトベンダーも「ねっとさーばCloud」を通じて、アプリケーションのバージョンアップ情報など利用者に有益な情報を利用者にダイレクトに届けることが可能となります。

クラウド環境の登場は、ソフトウェアを購入する時代から必要に応じて利用する時代へのシフトを決定的に加速させ、利用者、提供者間の新たなコミュニケーションを創出します。「ねっとさーばCloud」をそうしたコミュニケーションツールとしても進化させていきます。